

第 328 回昭和の森自然観察会

春 の 花

佐野由輝（大網白里市）

日 時：2019 年 4 月 14 日（日）13 時から 15 時 天気：晴れ

参加者：15 名（大人 9 名、子ども 6 名）、指導員 9 名

担当指導員：佐野由輝、佐藤一枝

4 月に入っても肌寒い日が続いた中、ようやく春らしい日和に恵まれ、春を心待ちにしていた子どもたちがたくさん参加してくれました。

まずは、2 月の観察会の時に冬芽の観察をしたアカシデとイヌシデがどのように成長したか観察しました。2 月の段階では寒さから身を守るため固く閉じていた冬芽が元気よく成長し、柔らかい葉っぱや花をたくさんつけていました。2 月の観察会では、冬芽の先をほっぺに当てて、その鋭さを比較しましたが、今回は、花の姿を目で比較しました。似ているけど、ちょっと違う花の姿に参加者の皆さんも感心していました。

次に、菖蒲田周辺の落葉樹の林床の様子を観察しました。ようやく葉が開き始めた時期なので、太陽の光が林床まで差し込んでいて、その光の中で、ヒトリシズカやイカリソウなど、たくさんの春の妖精（スプリング・エフェメラル）たちが踊っていました。例年なら、花を閉じて種子を膨らませているカタクリも、まだ花を咲かせていました。

続いて、日当たりの良い菖蒲田のあぜ道に咲く草花を観察。タンポポ、カラスノエンドウ、ホトケノザ、オオイヌノフグリなど、色とりどりの花々が元気よく咲き乱っていました。樹木の下で日陰になっているところでは、スミレやウラシマソウが咲いていて、ちょっとした環境の変化で植物たちが棲み分けをしている感じました。こうした小さな草花も、それぞれ、巧みな戦術で、子孫を残そうとしている話をすると、皆さん、植物たち知恵に驚いていました。

しばらく、草花の観察が続いたので、再び、木の花の観察。クヌギの大木の下で、雄花と雌花を見比べました。雄花は遠くから眺めても目立つのですが、雌花はなかなか見つかりません。秋になると、大きなまん丸のドングリに成長する雌花は、この時期はひとつそりとしています。

春の花の代表といえば桜。最後に、ちょうど見頃になっているオオシマザクラを観察しました。オオシマザクラは可憐な白い花で目を楽しませるだけではなく、香りも楽しむことができます。そして、参加者の皆さんに、たくさんの花の中から雄しべが花弁化している花を探してもらいました。すると、花びらが 6 枚の花や 8 枚の花を発見。その中から将来、新しい品種の桜が生まれるかもしれないという夢を抱きながら観察会を終了しました。

